



特集 市長所信表明

変革と協働

9月9日(木)『平成16年第3回登別市議会定例会』が開かれ、上野市長が5期目就任にあたり、市政執行に対する所信を表明しました。今月号では、この所信表明に注釈を加えてお知らせします。



▲平成16年第3回登別市議会定例会

市長就任にあたって

私は、去る8月の登別市長選挙におきまして、無投票当選の栄誉を賜り、5度、市長に就任いたしました。

市民の皆さんの大きな負託にお応えできるよう微力ではありますが、決意を新たにしまして、市政の推進に努めてまいりる所存であります。

市政運営の考え方

市政を取り巻く環境は、時の大きな転換期にあつてめまぐるしく変わり、市民の暮らしとともに行政運営もさまざまな面において変革を迫られております。

私は、こうした状況下にあつて、市民の皆さんがいつまでも安心して暮らすことのできる住みよい環境を整えることが私に課せられた使命と考え、これまでも全力を尽くして取り組んでまいりました。

地方分権（3頁※1参照）が進展していく中で個性豊かで魅力あるまちを築きあげるには、どのような取り組みを進めるのか、自ら選択し自ら責任を持つことが求められております。

少子高齢化（3頁※2参照）が進み、市民ニーズが多様化し増大する中で、市民の心の豊かさや満足度を高めるまちづくりを進めるには、市民と行政が共に考えて決め、共に汗を流し行動する協働の行政に転換していくことが必要であります。

いま、市はこれまでに経験したことのない財政危機（3頁※3参照）にあります。私は、市民の皆さんと知恵を出し合い、力を合わせてこの危機を乗り越え、協働のまちづくりの先頭に立つて全力を注いでまいります。

市民と行政が一体となつて、真の分権型社会の創造に向けたまちづくりを推進するために

当面する重要課題の基本的な考え方

- ① 財政基盤の強化
- ② 市民と協働のまちづくり
- ③ 分権時代における基礎自治体のあり方

① 財政基盤の強化

市政の最大の使命は、市民に